
 会 告

◎ G. Gordon 氏の講演会

昭和42年10月12日(木)午後2時から、機械振興会館地下2階ホールで、「The Development of Simulation Language」につき G. Gordon 氏 (IBM) が講演した。出席者230名、後援日本 IBM。

なお、同氏のプロフィールは本学会誌本号(第9巻第1号)のニュース欄、講演要旨は次号に掲載の予定である。

◎ 情報処理月例会(第3火曜日、於 機械振興会館)

○ 9月例会(9月19日)

「有限要素法の構造解析への応用」につき、桜井達美氏(三菱原子力)が講演した。出席者25名

○ 10月例会(10月12日)

上記 G. Gordon 氏講演を共催した。

○ 11月例会(11月21日)

「リスト処理における記憶場所の割付けと回収」につき、二村良彦氏(日立中研)が講演した。出席者33名。

◎ 研究委員会報告

ソフトウェア研究会

(10月20日(金)、於 電子協会議室、出席者10名) ファイルコントロール・システムのうち、ディスクを使った一例につき原田陸明氏(日本ソフト)がつぎのように報告した。

トラックセットによる木構造をもったファイルのカタログ、アクセス方法を採用すると次のような得失がある。

- 利点・ファイルへのデータの挿入削除が容易。
 - ・ファイルのコピーに時間がかからない。
 - ・ファイルをコピーしても物理的なエリアはほとんど増加しない。
 - ・ファイルの大きさをあらかじめ指定しておかなくても使用されただけエリアがとられる。
 - 欠点・多数のジョブが concurrent に動いていないとファイルのアクセスに時間がかかる。
 - ・キー探索の機能が有効に使用できない。
- また問題点としては、入出力の待ち合わせのコン

ロール、故障時のバックアップシステム、ファイル保護、タイムシェアリングシステムとの結合などが、るとし、その対策を検討した。

OLS 研究委員会(於 電子協会議室)

CIRCAL: On-line analysis of electronic networks につき、(1)第3回委員会(10月17日)に中村(機械試)が第1,2章、(2)第4回委員会(10月31日)に安部氏(日立)が第3章、および(3)第5回委員会(11月14日)に黒崎氏(沖)が第4,5章をそれぞれ報告した。なお、第3回に、井上氏(国防)が Time-sharing data processing systems の第4章まで報告した。

教育調査研究委員会(於 電子協会議室)

毎月第2月曜日(第1回(6/26)、第2回(7/17)、第3回(8/18)、第4回(10/16)、第5回(11/13))に開催し、12月現在計算機関係図書の見集とその評価および高校、大専養課程のカリキュラム編集について審議している。

CL 研究委員

(9月23日(土)13:30~17:00、於 電子協会議室、出席者15名)

- (1) 東京電機大学における日本文字入出力装置
中野道夫、大井尚一(東京電機大)
 - (2) 英語定形辞書 坂本義行、蓼沼良一(電)
 - (3) 不規則変化語の分析処理 西村恕彦(電)
- (11月18日(土)、13:30~17:00 於 電子協会議室出席者13名)

日本語文法の比較につき、坂井一郎氏(防衛庁)報告した。

◎ 第8回大会

昭和42年12月7日(木)、8日(金)の両日、機械振興会館において開催した。招待講演2件、一般講演61件が行なわれ、参加者500名を越え、学会創立以来の盛会となった(プログラムの詳細は、本学会誌第8号(42年11月号)を参照のこと)。

関 西 支 部

◎ 特別講演会報告

(11月14日(火)13:00~17:00、於 日本生之島研修所)

Pre-Compiler System につき、下記のとおり(社)大阪工業会コンピュータ研究会、関西 OR 協会と共催した。出席者 139 名。

1. Pre-Compiler System の考え方
横山 保氏(阪大)
2. AIR-System
米津信明氏(松下電器)
3. KEMPF
鈴木 康氏(開発銀行)
4. BL/I
梅田一郎氏(旭化成)

◎ 研究会報告

数値解析研究会(第 22 回)
(10 月 18 日(水) 14:00~16:30, 於 大阪科学技術センター)
[Monte Carlo Path-Integral Calculations for Two-Point Boundary-Value Problems] につき津田孝夫氏

(京大)および「選点、補間多項式による函数の逐次近似」につき鳥居達生氏(阪大)がそれぞれ講演をした。システムソルビング研究会(第 33 回)

(11 月 29 日(水) 17:30~20:00, 於 生産性関西地本会議室)

「Artificial Intelligence Through Simulated Evolution」第 1 章 Introduction, 第 2 章 Evolutionary Programming につき、渡部重明氏(追手門学院大)が報告した。出席者 9 名。

なお、「今後の研究活動」について打合わせを行った。

プログラミング言語研究会世話人会

(11 月 13 日(月) 18:00~20:00, 於 生産性関西地本会議室)

同研究会の新設について懇談した。出席者 11 名。

雑 報

数値制御用プログラミング言語に関する IFIP/IFAC 合同会議が 1969 年秋に予定
1966 年 11 月エルサレムで IFIP (国際情報処理学会)の会議で、イタリアの計算センタの A. Caracciolo

教授から、数値制御に関する、会議を開く提案があった。アメリカの E.L. Harder 博士よりの学会あて 8 月 31 日付の手紙によれば、同博士がとりまとめ中であるが、わか国でも情報処理学会が中心となり計測自動制御学会の協力のもとに、この会議に協力する予定である。

イルの
こどが
work
ニ中村氏
(10月
3)第5
4, 5章
氏(国鉄
の第4章

第3回
月現在
, 大学
いる。
子協会
力装置
機大)
一(電
彦(電
子協会

衛庁)

両日,
片, 一
学会
誌第8巻

日本生